

# 小豆島の子どもたちとの交流

## 小豆島プロジェクト活動報告 大学生と遊ぼう！編

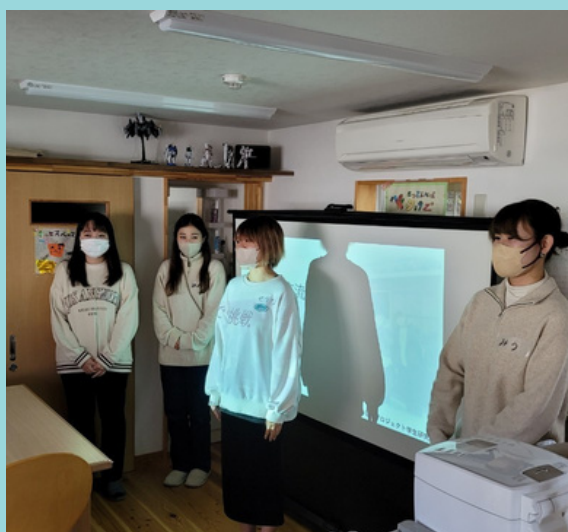
### はじめての交流

二〇二二年十二月十一日、小豆島プロジェクトは「子ども支援機構ぽこあぽこ」に訪れた。集まってくれた子どもたちは未就学児から小学生の十三名であった。遊びつつ保護者の方やスタッフの方に姉妹都市について話すことも目的とした。



文責

藤本瀬里奈



### 新しい世代との交流??

今まではビールを通じての交流がメインであったが、地域との直接的な交流も必要であると考えた。

「子ども支援機構ぽこあぽこ」と関わりのある島原さんに声をかけていただいたことをきっかけに、子どもとの交流を企画し

## 大学生 童心に帰る

### 当日の様子

室内では「ぽこあぽこ」の施設を借り、カードゲーム・ボードゲーム・お絵かきをした。屋外では「さくら公園」で、鬼ごっこ・木登りをした。

た。ビール醸造に関わる人や実際に購入する人は大人が多い。そのため、子どもから見える小豆島について考えるきっかけになると思ったことが、企画した理由である。



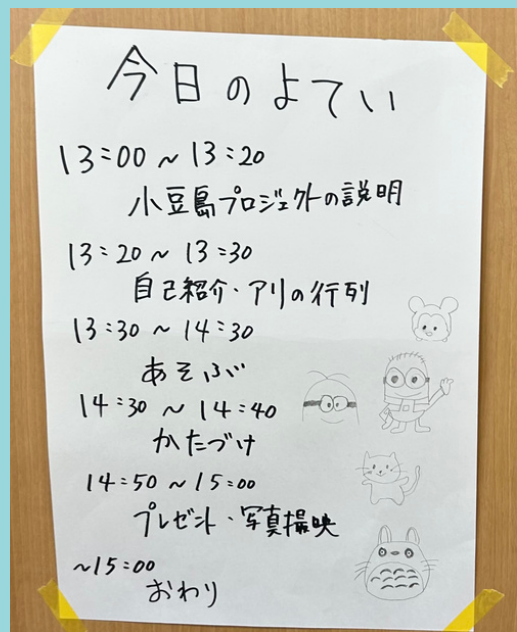
当初は子どもとの交流に緊張していたメン  
バーもいた。しかし、時間が経つにつれ、  
お互い緊張がほぐれた。誰一人大きな怪我  
や喧嘩をすることなく一時間楽しむことが  
できた。



## 開催までの道のり

子どもたちと一緒に楽しめるよう開催ま  
でに島原さんと保護者の方を交えて二回  
ミーティングを行った。そこでは、年齢  
によって接し方が違うことであったり、  
喧嘩をしてしまった時の対処法であった  
りと、保護者視点でしか分かりえないこ

とを教わった。また、時間が守れない子ど  
もが多いといったことから、大まかな当日  
の予定表を作成し、時間通りに動いてもら  
った。



当日の予定表

## 今後の活動

現在島原さんはぐろに力を入れている。  
そのため今年度は子ども企画ではなく、  
バーチャル内での交流を行なっていこう  
と考えている。年度末までには開催する  
予定である。

## 編集後記

私を含め、プロジェクトメン  
バーの半数以上は子どもと接  
することに対し、非常に緊張  
と不安を抱いていた。しか  
し、苦手だと思うこともなく  
一時間という短い交流時間を  
楽しむことができた。そのた  
め別れる際にはお互い寂しい気  
持ちになっていた。

この企画の大きな目的は、交  
流しつつ、子どもから見える  
小豆島について話を聞くこと  
であった。しかし、子どもと  
遊ぶことがメインとなってい  
まい、多くは聞くことはでき  
なかった。しかし、親御さん  
からは小豆島のことについて  
貴重なお話をたくさん聞くこ  
とができた。また、企画の内  
容を把握しきれいでいなかった  
ことから、プロジェクトのメ  
ンバーに当日情報共有するな  
どしてしまった。この多くの  
失敗をバネにし、次回は余裕  
を持って行動したい。